

事務事業計画書兼評価表(A表)

1 事務事業に関する基本情報

1 事務事業に関する基本情報					令和	5	年度
事業番号	837		事業名	若桜鉄道対策費			
担当課	企画課		担当係	若桜鉄道運行対策室	担当者	保木本 幸雄	
総合計画に最も 関連ある施策	施策	3	安心安全な暮らしづくり		連絡先	0858-76-0212	
	施策体系	2	道路・交通環境の充実		事業区分	■新規	
	主な事業	若桜鉄道対策事業				□継続	
予算区分	款	2	総務費		事業実施 主体	■八頭町	
	項	1	総務管理費			□その他	
	目	21	若桜鉄道対策費		計画期間	開始	平成21年度
	事業	837	若桜鉄道対策費			終了	

2 事務事業の概要

事業の対象	誰(何)に対してこの事業を行うのか記載。 ・町民、観光客等		
事業の目的	誰(何)をどうするためにこの事業を行うのか記載。 ・安全で安定した若桜鉄道の運行を維持するとともに、鉄道利用客の利便性の向上を図る。また、若桜鉄道を活用した観光振興を図る。		
事業の内容・手段	事業の規模や業務量など、また、どういう方法、手順で事業を進めるのか、具体的に記載。 ・地域公共交通確保維持改善事業(国庫補助事業)による軌道設備の更新、鉄道施設保守管理業務等による軌道設備の維持管理や駅舎等管理、車両の改修を行う。なお、軌道設備の更新や軌道設備の維持管理、車両の改修に関しては、若桜鉄道(株)に業務委託を行い実施し、駅舎等については、町で直接管理する。また、国からの地方創生推進交付金や、沿線市町で構成する利用促進実行委員会で展開する利用促進策により、観光素材の磨き上げ、観光客のさらなる誘客を行うほか、全国のローカル線の成功事例などを参考に、情報発信の強化や輸送人員の拡大を推進する。		
事業の成果到達点	どんな成果を得たいのか、または、何がどうなれば達成か、具体的に記載。 ・安全で安定した鉄道輸送の確保と公共交通網の整備を行うことにより、町民の利便性の向上が図られる。若桜鉄道(株)の輸送人員の増加と黒字化を目指す。		
根拠法令等	1	1. 法令(義務) 2. 法令(任意) 3. 条例 4. 規則・要綱等 5. なし	法令等名→ 鉄道事業法

3 活動指標、成果指標

活動指標		単位	事業の手段を図るものさし
	A	人	輸送人員
	B		
	C		
	D		
成果指標		単位	事業の成果、到達点を図るものさし
	A	千円	若桜鉄道(株)経営収支
	B		
	C		
	D		

4 コスト

区分			R2年度	R3年度	R4年度		R5年度		R6年度
		単位	実績	実績	目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	A	人	365,721	377,972	371,000	475,170	390,000	424,608	490,000
	B								
	C								
	D								
成果指標	A	千円	△ 2,493	△ 3,470	100	743	100	812	841
	B								
	C								
	D								
トータルコスト		千円	178,044	187,696	200,643	206,572	222,103	242,086	170,719
担当職員数		人	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
職員人件費		千円	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
事業費		千円	170,044	179,696	192,643	198,572	214,103	234,086	162,719
事業費財源内訳	国庫支出金(交付金・補助金)	千円	22,746	27,139	19,307	27,467	23,467	35,736	8,098
	県支出金(交付金・補助金)	千円	22,474	21,159	22,959	23,253	25,319	26,243	27,007
	地方債(借入金)	千円	83,100	84,000	95,300	93,800	100,600	105,600	83,400
	事業収入(使用料・参加費等)	千円	34,364	46,246	53,754	52,959	63,203	58,828	39,356
一般財源(単町費)		千円	7,360	1,152	1,323	1,093	1,514	7,679	4,858

事務事業計画書兼評価表(B表)

5 実施活動内容・成果(到達点)

令和

5

年度

実施活動内容・成果(到達点)	実施活動内容(具体的に)
	・公有民営化方式により八頭町・若桜町が軌道や車両の保守・維持管理及び設備改良等を実施し、年間を通して安全な旅客輸送を確保した。 ・高校生通学費助成制度を八頭町独自に拡充(上限7,000円/月→上限5,000円/月)し、子育て環境の改善をはかり、公共交通利用の転換をすすめる、輸送旅客の確保を行った。 ・国の交付金を活用して若桜鉄道グッズをインターネット販売を可能としたほか、県内外に積極的に物販・PRを行い、新たな体験型観光商品(DL体験運転、列車貸切撮影プラン)を造成し、鉄道ファンの確保と営業外収益の増収を図った。 ・JR西日本と連携し、鉄道の魅力発信と新たな鉄道ファン獲得に向けた企画(八頭フルーツ列車の運行・あめつち因美線乗り入れ事業)を実施した。
	成果(具体的に)

・国へ設備更新や検査費用の補助金の確保を要望し、安全輸送にかかる工事、修繕(マクラギPC化、踏切無遮断防止対策等)を計画どおり実施できた。また、乗客の利便性や現行のダイヤを維持するために新たな運転士等の採用(1名)を行い育成を図っており、また線路維持に係る工務職員を新規に採用(1名)し、計画的に技術継承と世代交代を行うことができた。

・「1日駅長体験」や「SL/DL体験運転」などの体験型商品の実施により、営業外収益の安定した収益の確保につながった。

・高校生通学費助成制度の拡充により、通学旅客収入が前年比+1,640千円増収した。

・新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、新たな体験メニューの実施やイベント等を積極的に行い、最終的な決算では81万円余りの黒字となり、2期連続の黒字となった。

6 事務事業の評価

評価項目	評価点	点数	チェックポイント	判断理由・評価コメント(具体的に記入のこと)
必要性 (町民ニーズ)	20	20	①必要性が高い	・通学や通勤、また、高齢者の方など生活における移動手段の確保を図るため、大量輸送のできる公共交通としての鉄道の維持・確保は必要である。また、八頭町は、第三種鉄道事業者として鉄道の安全輸送を確保する必要がある。
		13	②どちらかと言えば必要性がある	
		7	③必要性が低い	
		0	④必要性がない	
妥当性 (町が行わなければならないか)	20	20	①町が行わないといけない	・鉄道施設整備の施工業者は一般の公共工事に比べて限定されるため、コストが割高となる傾向にあるが、委託先の若桜鉄道(株)においては固定化になりつつある、修繕・工事施工業者の拡大を図っており、価格の公平性を確保、維持しているほか、一定の修繕、補修などを直営で実施しており、経費削減に努めている。
		13	②どちらかと言えば町が実施	
		7	③妥当性が低い	
		0	④妥当性がない	
効率性 (コスト削減の余地は無い)	13	20	①効率的である	・現在保有している車両は、運行開始から35年以上が経過しており、修理部品の枯渇や代替用品の確保が難しくなっていることから、地域住民の生活交通を確保するために、観光振興による地域活性化を図るためにも、今後車両更新に対しての方針決定が必要である。
		13	②どちらかと言えば効率的である	
		7	③どちらかと言えば非効率的である	
		0	④非効率的である	
緊急性 (他事業に優先し実施する必要があるか)	20	20	①緊急性が高い	・鉄道の安全輸送を維持するためには、運転士や技術職員の確保が喫緊の課題であり、さらに物価高騰やコストが高止まりすることで、引き続き経営を圧迫することが予想される。
		13	②比較的緊急性がある	
		7	③緊急性が低い	
		0	④緊急性がない	
成果 (目的の達成状況)	13	20	①成果が上がっている	・今後、若桜鉄道の乗車人員や旅客収入を維持していくためには、これまで以上の営業努力が必要である。
		13	②どちらかと言えば上がっている	
		7	③どちらかと言えば上がっていない	
		0	④成果が上がっていない	

7 町の方向性・方針

事業の方向性		問題点及び今後の課題・方向性
1 拡充する	2	(事業活動に当たり、一番の問題点として捉えていること。重点的に手当てする事柄、改善点、工夫したい箇所)
2 改善・効率化し継続		・施設や車両の老朽化に伴う修繕経費の増加を減少させる必要がある。 ・運転士や指令業務、保線業務にあたる職員の高齢化が進み、積極的な世代交代と職員の育成が急務である。
3 現状維持		・全国各社慢性的なマンパワー不足となっており、人材や施工業者の確保が難しくなっている。 ・旅客収入を飛躍的に増加させることは困難であることが予想され、鉄道関連イベントへの参加や情報発信を積極的に行い、営業外収益を確保することで、安定した経営を維持することが必要である。
4 見直しの上縮小する		(上記問題点を解決していくため、次年度どんな活動を展開していくのか)
5 終期設定し終了		・計画的に施設・車両の更新計画を作成し、予算の確保と沿線住民のコンセンサスを作り上げる。 ・計画的な職員採用を継続して実施し、経費削減と外部委託業務の精査を図る。
6 廃止		・都市圏で実施するイベント等に積極的に参加し、若桜鉄道のPRやグッズ販売を行い、営業外収益の確保を図る。 ・円安や大阪万博を契機に来訪されるインバウンドの受け入れ環境の整備をすすめる、外国人旅行者への情報発信を行うことに併せて、事務の効率化、デジタル技術の活用を取り入れ経費削減を図る。